

地方自治体におけるメタンハイドレート調査の試み Trials of the methane hydrate observations in the local governments

青山 千春^{1*}
AOYAMA, Chiharu^{1*}

¹ 株式会社独立総合研究所
¹ Japans Independent Institute

日本海側の自治体1府9県は、「海洋エネルギー資源開発促進日本海連合（以下、日本海連合）」を2012年9月に設立し、政府のメタンハイドレート資源開発を後押しする事で、地域の活性化と雇用創出をめざしている。日本海連合の中の新潟県と兵庫県は県独自のメタンハイドレート調査を実施し、政府へその成果を示すことで、政府の開発促進をアピールしている。一方で太平洋側の和歌山県は、政府が開発している海域より、陸側に近い海域に表層型メタンハイドレートが存在する事を示すことにより、開発海域の再検討を政府へアピールしたい考えである。独立総合研究所は、2013年度に新潟県、兵庫県と和歌山県とそれぞれ共同研究を実施したので、その報告を行う。

新潟県との共同調査は、2013年6月に、メタンブルームの観測を実施した。新潟県が保有する「越路丸」（187トン）で、佐渡東方の最上舟状海盆東斜面（水深200mから600m）において、カラー魚群探知機（FURUNO FCV-10）を利用して実施した。その結果、複数のブルームが観測された。

兵庫県との共同調査は、2013年9月に、計量魚群探知機によるメタンブルームの観測、サブボトムプロファイラーによる海底下の観測、マルチビームによる海底地形の観測を実施した。「第七開洋丸」（499トン）で、隠岐堆東方海域で実施した。さらにピストンコアリングを行い、5本のサンプルを採取し、メタンハイドレートの痕跡を複数確認した。

和歌山県との共同調査は、2013年11月と2014年1月に観測を実施した。和歌山県が保有する漁業調査船「きのくに」（99トン）で、潮岬南方12海里的の潮岬海底谷（水深1,700mから2,200m）において、計量魚群探知機（SIMRAD ES60）を利用して実施した。その結果、複数のブルームが観測された。太平洋側でのブルームの報告は、いままでほとんど無いので、今後も観測を続けたい。

キーワード: メタンハイドレート, メタンブルーム, 計量魚群探知機, ピストンコア
Keywords: methane hydrate, methane plume, quantitative echo shounder, piston core